



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第7号

徳島 1915年11月7日

11月7日のために

今日は、朝6時23分に白旗がチンタオ信号所の銃弾で壊されたマストに高く掲げられて、数週間に及ぶ大砲の轟きに終止符が打たれたその日だ。

一体チンタオの運命は将来どのように形成されるのであろうか。11月7日はドイツ人の一人一人にとって悲しい記憶として残り続けるであろう。そして特に我々にとって、黄海沿いのその小さな町を知り、かつ愛した我々にとっては、その赤い屋根の家々、その広く清潔な街路、その緑の丘、その太陽が降り注ぐ浜辺は、実に極東におけるドイツの小さな似姿で、我々の多くの者には第二の故郷となっていた。そしてその町は最後には更に、我々の多くの戦友たちの最後の安息の場所になった。ドイツの栄光のためにチンタオをめぐる戦闘で命を失い、その質素な兵士の墓を花で飾ることも出来ない彼ら、彼らを我々はこの日全く格別悲しみに思い起こす。しか

しまし誇りと感謝をこめて思い起こすのである。

「木の十字架が、白墨によって碑銘が書かれただけの彼等の墓の上で揺れ動き、その墓碑銘を雨がじきに洗い流す。するとその場所は無名墓地になる。だが全国民の感謝は、いかなる墳丘にもその名が記されていない彼らのために、そこの丘の外で斃れた一人一人のために、目に見えない記念碑を建てる」

現況について

上海から届いたある私信から、我々は現況についての次のような興味深い詳細を受け取った。

ブルガリアが我々の側に踏み出し、またギリシャ並びにルーマニアは絶対的に中立に留まる意思であることから、事態は我々にとって新たなる、しかも非常に好都合な転回を取った。イギリスでのことだが、最近の上院議会でのある報告が更に我々に漏らされた。つまりキッチナー卿がガリポリから部隊を撤退させて、どこか別に振り向けるように提案し、またリベルスデール卿は次のように語った。「新たにして困難な状況は政府に、尊厳の維持の下、あらゆる状態を真面目に眺めて、ダーダネルスでの不幸な冒険から退くことができる否か考量する機会を与えている。」

それは種々のことを露呈している。その一つには部隊徴兵、及び激しい抵抗に直面して脅かされている一般兵役義務の困難がある。

更に加わるのはセルビア突破で、これはまもなく実現するであろう。またそれによって生じるトルコとの直接的な連携、これは甚だ重要である。あらゆる努力にも関わらず敵による突破は成功せず、結局のところ西部では失敗した。我々は多分まちがいがなく、それは成功することはない、と言えるだろう。事實は、多分我々の信頼をさらに本質的に高めつつあり、全戦闘の間もない終結への期待を我々の心の中に呼び覚ますのではなかろうか。

日本の刀剣（1）

いかなる民族においても、日本人の場合ほどに刀が公的生活においても私的生活においてもこのように重要な役割を演じたことはない。またいかなる民族においても、日本と同じくらいに刀が芸術的な尊敬の対象だったことはない。1876年まで刀を身につけることは、戦争の習慣のみならず、それはむしろある種の国民層にとっての本質的な権利であった。京都の帝の宮廷に仕える宮廷貴族である公家と、代々将軍の家来にして軍事貴族の侍のみが二本の刀を身につける権利を有していた。公家は通例、大きな湾曲した長い刀剣、太刀を体に巻きつけた帯に差し、小刀を帯の中に入れてある。侍は1メートルほどの長さの刀剣である刀とひどく短い脇差を帯の左側に差している。学問を身につけた職人と農民は祝祭と旅をする際にのみ短い刀を差すことが許された。小商人、僧侶、皮なめし職人及び皮剥ぎ職人は刀を差すことは許されなかった。女性は一般に武器を身につけないが、旅の道中には小刀を帯の中に挟んでいた。身分が高い階層の少年は父親の地位に応じて木の刀を差し、髪型を変える15歳の時に若者は真剣を差すことが出来る。

徳川将軍治下の長い平和の時代に、刀を差すための厳格にして面倒な規定が形成された。他人の刀はその持ち主の許しを得ないで触れることは許されなかった。鞆にうっかり接触しただけでも侮辱と見做された。友人の家でも大刀を外に置かずに上がることは出来なかった。訪問に際して刀を外す場合は、主の下僕だけが刀を預かりことが出来、しかも下僕は特別な刀用の布に包まねばならなかった。刀身を抜くことが出来るのは、刀を検分する時だけだった。刀を友人に見せる時、持ち主の方に鞆を向けて、刀の柄は友人の左側で渡され、またその際には、絹の布かもしくは柔らかい紙で刀を受け取るのであった。小刀は絶えず帯の中に差したままで、気がねしない者と比較的長く一緒にいる時にのみそれを外した。

つづく

ミ サ

今日再び我々は収容所で、嬉しいことに一人の訪問客に挨拶することが出来るであろう。しかもこの度は、これまで我々をまだ訪問してくれなかった方、つまりフンツィカー牧師である。師は我々のもとで福音派のミサを執り行ってくれるであろう。我々が聞くところではフンツィカー牧師はスイス人である。スイスはこの戦争では「中立」という概念を真に気高く、真面目に捉えるとともに、その犠牲的で、非利己的な善意の仕事によって、他の多くの国には「中立」的な国家の名のみで輝かしい手本であるようだ。

我々はフンツィカー牧師が訪問してくれることを心から感謝し、師に収容所の設備を知ってもらうことを待ち望んでいる。

灰緑色の制服の海軍（第2部）

海難事故での人命救助が始まっている。我々の前哨艦隊の小型飛行機二機が、西から難破船の方向に機敏な飛行をしている。すると転覆船の背後から煙が視野に入る。沈没しつつある船に向かってコースを取る二隻目のイギリスの駆逐艦の報告が入る。大砲が再び砲火を浴びせる。敵艦は数分耐えるがやがて逃走する。

我々の大型トロール船は、搭載ボートに乗り込んでいた無傷のマオリ族の乗組員、及び不運を呪って憤るのも無理はない若い将校を、救助のために遣わされた「クルセーダー」号のボートの乗員ともども捕獲した。イギリスの新聞は、我々の船乗りたちが戦闘後にイギリス人を海難事故から救助する努力をしていないと主張している。我々がいま返答できることは、病める船だけではなく、健全なイギリス船の乗組員も「救助」していることである。

軍団はそれを主張する国からの軍票による支払いで生計を立てている。

ただ僅かな穀物の供給が、発見された在庫を消費した後に経理部によって要求されたように思われた。我々の部隊は刈り入れ前に小さな町に入ったので、海岸沿いの温泉地は食料品の真の貯蔵量を隠した。

今日ではどの地区でも幾ばくかを引き渡さなければならないことを知っている。しかし軍団は経理部の仕事を通じて、在庫を使い果たすのではなく、部隊並びに住民を養うためにそれを補充し増やすことに配慮している。放置された畑と丘を我々は耕作と管理のために引き受けた。監督官はその管理地域の農民たちを招集して、春の作業に向けてどんなものが不足しているか尋ねた。協議はたいてい友好的に行われた。相手の言葉を理解することは簡単だった。というのはフラマン語は我々の船員たちによって話されている低地語（低地ドイツ語）に似ているからだ。しばしば農民たちは馬の不足を訴えた。そこで部隊側は彼らのために部隊内から馬を貸し与えた。種籾の不足は更に少なく、たっぷりと交付することが出来た。脱穀機は次の収穫のためにすでに用意されている。海軍師団にとって喜びの日々が再び訪れて来たこの頃、イーペル手前で運河東方の敵方前線の腫瘍に対して大攻撃が始まった。ある水兵連隊は勇敢なる前進攻撃を加えて、敵から広い大地をもぎ取った。別の連隊は圧倒的に優勢なアルジェリア人軽歩兵に対して勝利した。水兵は戦闘を描写する独自の戦略並びに方法をもっている。砂浜を通過して前進する際は多分銃はとても重過ぎる。すると水兵は手で扱いやすい武器としてスコップや艦上ナイフに手を出すことになる。アルジェリア人軽歩兵の攻撃撃退に助力した無骨な大男の戦闘報告はこうだった：「最初に彼らは『全体前進』と叫んだ。すると二人が塹壕から突進して来たが、再び引込んだ。というのは他に誰一人続いて来なかったからだ。やがて80人がやってきて、また引込んだ。その後少なくとも800人がやって来て、我々の陣地まで走って来た。しかし我々が彼らを望んでいなかったことを知ると、彼らは引き返した。つまりそうするよりほかなかったのだ。」

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 57 問解答

1. Df5 - h3 任意の手
2. Sb2, Sb3, か f7 - f8D
で詰み

第 58 問解答

1. Sc2 - e3 Ld4 x e3
2. Df7 - e6+ Ke5 x f4(-d4)
3. De6 - f6 詰み

第 58 問その他の解答

1. Ke5 - d6 1. g3 x h2
2. Se3 - f5+ Kd6 - e5 2. Sf4 - g6+ Ke5-d6
3. Sf4 - g6 詰み 3. Df7 - e7 詰み

正解を送ってきたのはヨーゼフ・ヴェーバー。

第 59 問 白 : Kb1, Dh2, Lf1, Lb7

黒 : Kb4, Ba4, b3, d4

2 手詰め

第 60 問 白 : Ka8, Dh3, Ta1, d5, Lg7, Be2, f4, g3, g4

黒 : Kc4, Ba2

3 手詰め

スポーツ

次の日曜の 11 月 8 日、第 2 回スポーツ週間が開始される。申込者名簿に一連の新しい名前を確認できることは一つの喜びである。6 種競技だけでもこれまでに 20 人が名乗りを挙げている。ともかくも収容所全体の 10 分の 1 に及んでいる。スポーツ委員会は、次の開催には参加することがさらに広まることを期待している。その折寄せられた賞品の数の多さは、さ

らに十分な資金達成で賞品を獲得する展望があることの保証である。競技は次の順序で実施される見込みである。

サッカー、ファウストバル、リレー競技、ハードル競争、重量石投げ、走り幅跳び、棒高跳び、砲丸投げ、走り幅跳び、三段跳び、徒手体操。

詳細は掲示で再度知らされる。

参加申込みは 11 月 7 日日曜正午 12 時に締め切られる。

U ボートの獲物（1）

オットー・フォン・ゴットベルク

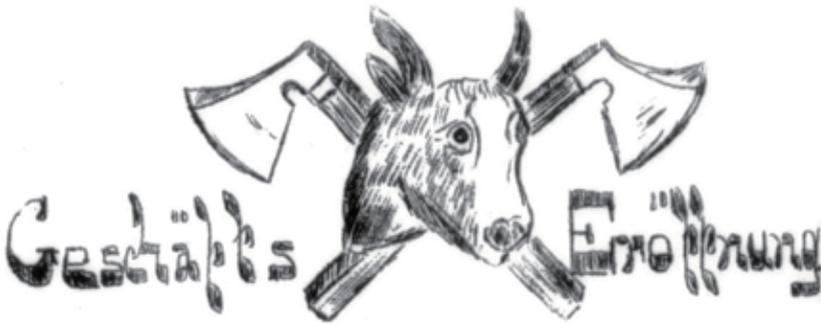
陽光うららかな春の中を、U- はマース灯台船の沖で北西に進路を取り、北海の波の上を滑ってゆく。艦長は海上を航行するのが好きなのだ。彼は大砲が水雷と同等の価値がある武器と確信している。彼は誰よりも、潜水艦は乗物を破壊するだけでなく、拿捕しなければならないと、どの考えを代表する人物なのである。

午後もまだ早い頃、海軍大尉は黒く立ち昇る煙の下を赤い船体がきらめく海から現れるのを見ている。U- の信号旗は中立を示す旗を掲げる汽船を停船させる。外国船の上級船員が船内文書で U- の船上へ呼ばれる。積荷はなるほど英語で書かれているが、中立地域向けの食品と判断される。それ故その汽船は引き続き航行することが許可される。

一時間もしない内に、再び信号旗が一隻の中立船の停船を命じることになる。外国船は逃走を企てるが、圧倒的な迅速さで我らが U- は逃走船に追いつき、司令官は船長を威嚇する。「本来なら砲撃をしなければならなかったところだ。身分証明書を寄こしなさい!」。彼らはすばやく臨検を受ける。というのもすでに第三の汽船が視界に入ってきたからだ。その汽船は旗を掲げていない。もちろんイギリス船で、船名はリュワーデンであ

る。旗を掲げるようにという信号に対して、向きを変え遠ざかろうとする。U- は追尾し、ブリテン船の舳先に砲弾を二発発射する。今や汽船は停船し、我々が U- は舷側に回る。艦長はイギリス人たちの下船に 10 分間の猶予を与える。彼らは 2 月 18 日以来下船の訓練を受けていて、3 分後には小型ボートに乗り移った。

つづく



開 店

新鮮なソーセージを収容所で手に入れることは、すでに多くの人の願いであった。この需要に何とか応えるために、私はこの品物の製造を引き受けることを決心した。11 月 12 日金曜のお勧めは以下である。

ウインナー	1 対	7 銭
じっくり煮た豚の足	1 個	15 銭
ゆでたメットヴルスト	1 個	40 銭
ブラウンシュヴァイクソーセージ	1 個	40 銭

注文は引き渡しを考慮して月曜夕方まで。多分いまだかつてこんなに少ない資本で設立された店は決してなかったので、どしどし注文して支援してくれるようお願いします。

厨房から渡されるソーセージは当方の製造です。何かそれにご批判があれば、顧客氏の好みに喜んで応じる用意があります。

謹白
オットー・ハンナスキー

手紙（5）

フランスのH.にて

愛するアンナ！

ひょっとして君が心の中で、僕が人を嘲笑するほどの素養は持ち合わせていないと考えているならば、それは君のまちがいだ。つまり君からの手紙を手にしてすぐさま、君はレーマンとこのヴィリーのことで僕に嫌味を言おうとしているとの認識に至った。しかし僕がその男の言うことは全て信じている、なんてことは思い込まないで欲しい。というのもその男がロシアに行って白いシャツと同じく白いズボンを制服の上に着て、それで雪の上でも見つからないようにしてコサック兵を10人捕まえるなんて不可能なことだ。すると君、そりゃ素人だったらびっくりするだろうが、専門家なら頭を振るぞ。というのはこれには戦略的信頼性がないからだ。一方その男は白いシャツと白いズボンを理由にしている。愛するアンナ！そういうことは存在しないのだ！レーマンとこのヴィリーに、自分がもうじきロシア兵をソーセージの大鍋の中に投げ入れるなんてことを言わせるんじゃない。僕が東方へ来ていたなら、その時にはもうとっくにロシア兵はみんなそうになっているし、財務部はそれ故真っ先にレーマンとこのヴィリーを動員する必要は無く、奴は君に言い寄るために家に留まることが出来たのだ。

愛するアンナ！ここにいる僕たちは、フランス兵ムシューのところへ踏

み込む奴らばかりだ。僕たちが誠実な意図をもっていると分かり次第、そいつらフランス人たちは多分お手本のなんたるかを感じるだろう。しかし中尉殿は語った。クネチュケ、こいつらを少し突っ走らせろ。哀れな連中はともかく一度、楽しみを感じなければならない！そこでやつらを銃剣で起こすと、やつらは復讐の女神のよう追って来ながら、大きな鬨の声をあげた。しかし中尉殿は語った。私が言うまで一人も銃を撃ってはいけない。そして中尉殿は煙草に火をつけ爪を磨いた。そいつらは有色人種の混じった白人で、速足の脛を用いて近づきながら、家畜小屋の動物たちように吠え立てた。それに対して中尉殿はなおも爪磨きを企てていた。しかしそいつらが 100 メートルの距離まで来たとき、中尉殿は命じた。狙え！愛するアンナ！僕は君に本当のことを言おう。つまり一人の馬鹿者がそこにいて、待つことが出来ないで、そいつは飛びかかった。僕らが赤恥を搔いたことは、君も信じてくれるだろう。一人の馬鹿者が中隊にいたことは、その規律がなかったということだ。しかし中尉殿は眉一つ動かさずに、罰としてこう言った。止め！その後で中尉は再び爪を磨いた。親愛なる君、君は見抜いているだろう。これは腹をよじて笑うほどの冗談ではなかったことを。もしそこにレーマンとこのヴィリーがいたら、そいつはその時冷や汗を流したことだろう。というのもやつらはすでに近くに来ていて、実に激しいスペクタクルを生み出し銃剣を振り回すなどした。それに対して僕らはそれだけ嵐の前の静けさを維持し、馬鹿者も青銅の彫像のように横たわっていた。すると中尉殿は微笑んで言った。非の打ち所がない！その後彼は爪磨きを投げ出して、もう一度「狙え！」と命じた。愛するアンナ！その後すぐに「撃て！」の命令が下りた。多分 20 メートルの距離でその子の面倒を見ている間に、実に心地よくない出来事がムシューたちに生じた。誰でもいいから尋ねてみるといい。

ところで僕は君にあること暴露するつもりだ。すると君は命は一本の糸にぶら下がっているのだな、と思うことだろう。その糸は太い綱であるにもかかわらず。（ところが、これは太い綱なんだ。それで僕は君にすぐに

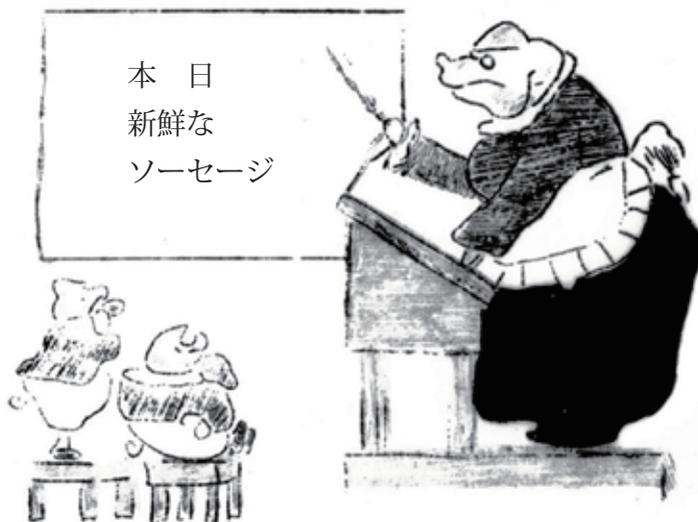
言いたいのは、それは 100 パーセント以下では、青い眼をした者が一人として体験しないある事件だ。愛するアンナ！ 101 パーセントで初めて体験するのだ！これが起こった。つまり僕らの中隊はツェッペリン号が降りてくるのに居合わせていた。みんなはバラストの役目をするために、係留索をつかんでいなければならなかった。しかしその時ツェッペリンは再び逆方向に進もうとした。そこで命令が下された。「放せ！」。君、ひよっとしたら僕の髪の毛は真っ白になったかもしれない。というのも僕はその綱に絡まって、それで地面から僕の長靴が離れて僕は空中に浮かんだ。そこで中尉殿は叫んだ。「クネチュケ、挫けるな！」。でも中尉殿は不可能なことを要求したので、僕は考えをまとめねばならなかった。失敗しないように、また捕まらないように。というのもこれは戦略的状况なので、そこには将軍がいるかもしれないが、勝手に分かっていない。愛するアンナ！僕は一部だけ胃のところに結び目がかかっている、それが厄介にも圧迫し続けていた。すると君は密かに言うかもしれない。そんな結び目はそうこうしていると解けるものだと。しかしこれは違う。つまり僕はすぐさま墜落することになるだろう。そこで僕はその結び目をその場所に放っておいて、加速を上げて大聖堂目がけて離れた。親愛なる君、多分僕はそこで不安を感じた。というのもこの大聖堂は壊してはいけないのだ。つまりこの大聖堂の中にはフランス文化が保存されているからだ。そこで僕は方向転換をして、長靴だけを向けた。しかし長靴は塔の先端につかまり、それで長靴は僕の体から離れた。それで僕は長靴をまだ取り戻していなくてそれは塔の先端にくっついて、僕はまだ二度とそこに長いこと行ったことがない。もう君は、僕が激しい喜びに包まれていたことに何の疑いも感じないだろう。もし誰かが来て、フランス文化は壊れたのではなくてこれはただ長靴がくっ付いているだけだと言うと、それは僕じゃなかったと言う全権を君に託す。僕はともかくミツバチのように手をばたばたして飛んで行った。けれども僕が遠くへ飛んでいると、僕の耳に弾がうなって飛んでくる。愛するアンナ！その弾が僕に当たるのか、君に当たるのか。この弾は非常

に下劣な行為だ。それは僕が周知のように無防備の状態にあったからだし、そういう時にはまだ国際法が存在しているだろうから。僕がこうした戦闘欲へと突き進んだと心の中で考える者がいるとすると、そいつは多分見事な間抜けだ。そうではなく綱の結び目が激しく胃を圧迫して、それで僕は吐き気を感じた。そこで僕は遠くの砲弾が落ちた所に向かって僕の昼食用食器を落としてやった。ひょっとしたらそれでフランス義勇兵は、戦争とはそんな甘い話ではないと気づいたかもしれない。何故ならその昼食というのが麦の粥だったからだ。

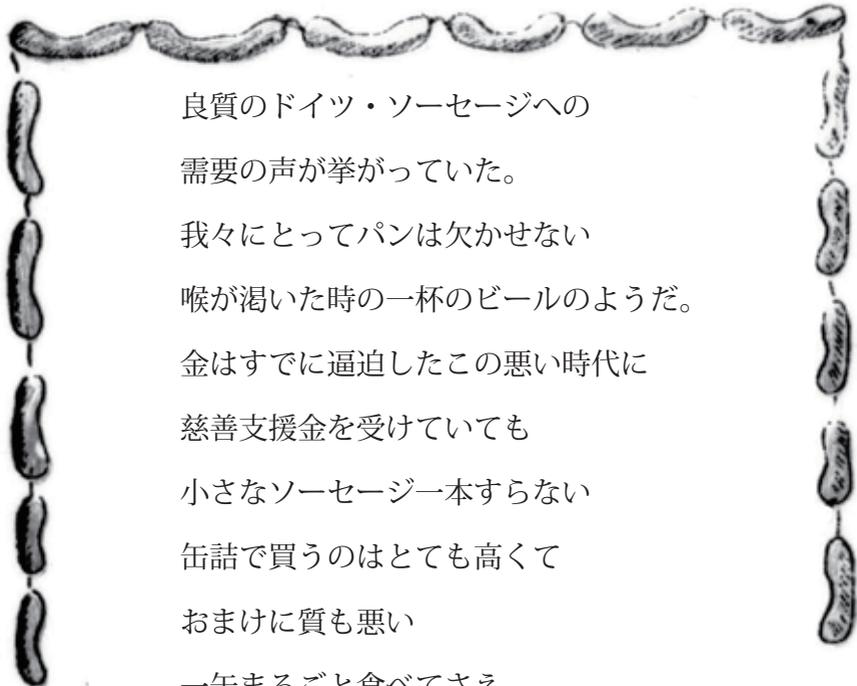
愛するアンナ！ツェッペリン事件の後に皆に分かったことは、僕がそのツェッペリン号の下で宙ぶらりんの状態で留まっていたことだ。その後ツェッペリンは僕を綱で上方へ引っばった。もう多分君は分かっているだろう。これは一つの冒険で、ごく容易に眼に入りうる。君がいつもレーマンとこのヴィリーの行いを種に僕を嘲るので、ひょっとして、その男がすでにかつて一本の綱でツェッペリンにぶら下がって揺れたことがあるかどうか尋ねてくれ。

それがじきに起こることを願って君にキスを送る。

心から愛する君の
ハインリヒ・クネチュケ



窮乏もいまや全く終わり
廉価で品質が良く、素晴らしい
収容所自家製の新鮮な
ソーセージとハムが購入できます。

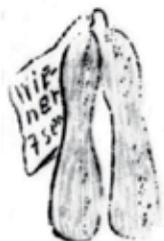


良質のドイツ・ソーセージへの
需要の音が挙がっていた。
我々にとってパンは欠かせない
喉が渴いた時の一杯のビールのようなだ。
金はすでに逼迫したこの悪い時代に
慈善支援金を受けていても
小さなソーセージ一本すらない
缶詰で買うのはとても高くて
おまけに質も悪い
一缶まるごと食べてさえ
胃は満腹にはならない
誰にも他の多くの場合のように
週に餌箱ほどなんて
許されてはいない
それに必要なお金だって
そこで我々に今までに見つかった
という感のそんな人物を称えねばならない





まずは一度試してみて
注文を入れて欲しい
何があるかは新聞が教えてくれる
大小さまざまなソーセージ
つまり今はただ選ぶこと
それが各自には必要だ
恐らく価格と同様に
品質もそんなに外れてはいない
店はきっと繁盛するだろう
それは正真正銘保証する。





肉不足への対策

ある小学校訪問の際、視学官は戦争中の滋養に関して、特に肉の調達について語る。彼が子どもたちに分からせようとしたことは、肉の調達の解決には、ドイツが肉の消費を制限するようにならなければならないことであった。

「それでは肉が不足したら、どうすればいいでしょう」

という最後の質問に対して、とても賢い目をした小さなフリッツの当意即妙の答え「じゃ、豚を屠殺すればいいです」